

4. 海外研修旅行（タイ）

（1）海外研修旅行の概要

日程：令和元年5月20日（月）～5月25日（土）

訪問先：タイ（バンコク・アユタヤ方面）

引率：教員9名、看護師2名、添乗員2名

目的：1. 発展著しいバンコク及びその周辺部を視察し、その社会課題を大阪と比較しながら考察することで、アジアの現状に関する理解を深める。

2. 各自の研究テーマに関わる諸施設へのフィールドワーク（以下FW）を通して情報を収集し、課題研究の深化に役立てる。
3. 現地高校生、大学生とのディスカッションや交流を通して、コミュニケーション力や多文化理解力を高める。

生徒全員が海外FWに参加することが本校の最大の特徴である。アジアを研究フィールドに設定するにあたり、現地で得られる気づきや情報を課題研究に生かせるよう、生徒それぞれが研修旅行に対する目的を明確にした上で、各施設へのFWや現地の高校生や大学生とのディスカッション、交流の準備を行った。

（2）日程表

	日時	地名	行程	食事
1	5/20(月)	関西空港 バンコク	関西空港発、スワンナプーム空港着 バスでバンコクへ	昼：機内食 夕：ホテル
2	5/21(火)	バンコク	AM：スラム見学・幼稚園交流 PM：高校交流（トリアムウドムスクサ高校） 自由散策（サイアムスクエア）	朝：ホテル 昼：ホテル 夕：レストラン
3	5/22(水)	バンコク	AM：バンコク市内観光 PM：B&S プログラム	朝：ホテル 昼：ホテル 夕：各自（B&S プログラム中）
4	5/23(木)	バンコク アユタヤ	コース別FW	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：ホテル
5	5/24(金)	アユタヤ バンコク	AM：アユタヤ遺跡観光 チャオプラヤ川クルーズ PM：自由散策（アジアティーク） スワンナプーム空港発	朝：ホテル 昼：クルーズビュッフェ 夕：各自（アジアティーク内）
6	5/25(土)	関西空港	関西空港着	朝：機内

（3）活動内容

a 実施までのスケジュール

1年次に立ち上げた旅行委員会では、「研修旅行を、教員や旅行委員だけでなく、学年全員でつくりあげる」という目標を立て、準備を始めた。まずはタイへの関心を高めるため、①FW先の情報、②バンコク市内の情報、③高校生や大学生との交流などについて、研修旅行のプログラムに沿って旅行委員がプレゼンテーションを行った。さらに各自が旅行するにあたって知っておきたいこと、関心あることを問い合わせの形式で募集し、それに答えていく形で、学年全員の当事者意識を高めていった。その後、タイ新聞や、学年掲示板に写真を掲示するなど、研修旅行の情報発信を行ってきた。

	日時	授業	内容
①	1/24(木)	3、4、6限(LHR・総合)	タイ調べ学習
②	1/31(木)	5、6限(総合)	調べ学習発表
③	3/12(火)	3、4限(総合)	秦先生講演会
④	4/15(月)	5、6限(総合)	ホテル部屋割り、B&S企画書作成
⑤	4/18(木)	4限(LHR)	研修旅行概要説明 (JTBより4/20保護者向け説明会実施)
⑥	4/25(木)	4、5、6限(LHR・総合)	幼稚園交流・高校交流企画書、FW事前学習
⑦	5/9(木)	4、5、6限(LHR・総合)	幼稚園交流・高校交流企画書、FW事前学習
⑧	5/18(土)	4限(LHR)	しおり配布・結団式

b 事前学習

① タイについて学ぶ (1年次・1月24日(木) 3、4、6限、1月31日(木) 5、6限)

昨年度の報告書に記載したため、割愛する。

② クロントーイスラム事前学習 (1年次・3月12日(火) 3、4限)

近畿大学国際学部国際学科グローバル専攻秦辰也教授に「アジアの人々と共に生きる」というテーマで講演をしていただいた。クロントーイスラムの支援を行っているドゥアン・プラティープ財団の活動に携わり、ご自身が行ってきた国際協力活動を中心に、NGO活動の在り方からアジアの現状、タイの文化等、幅広いお話を伺うことができた。

③ FW事前学習 (4月25日(木) 4~6限、5月9日(木) 4~6限)

ワットサケオ孤児院(格差領域)、タマサート大学(防災領域)、病院視察(医療領域)の3つのFW先のうち、各自が訪問する場所について、立地、歴史、取組み内容などについて、主にインターネット検索による調べ学習を行なった。

c 現地での活動内容

① アユタヤ・バンコク

研修旅行のプログラムは、アユタヤとバンコクでの寺院や遺跡の観光、エレファントライドやタイ舞踊鑑賞など、現地の文化や風習を体験できるものも含まれている。ほとんどの生徒にとって今回が初めてのアジア訪問であり、食事や施設の設備面など、様々な点でカルチャーショックがあったようだが、アンケート結果から、その経験から研究の対象とする事柄に関して多様な気づきがあったことがわかっている。



王宮（バンコク）



ワット・ヤイ・チャイ・モンコン（アユタヤ）



象乗り体験（アユタヤ）

② フィールドワーク

3つの研究領域（「医療・保健」、「格差・貧困」、「防災・減災」）別にFW先を設定し、生徒は各所属の領域に合わせてFWを行った。なお、後述のように、クロントーイスラムの視察は、FWとは別に、すべての生徒が訪問した。

i 病院視察（医療・保健領域 58名参加）

生徒を2つのグループに分け、それぞれがラマ9世病院とバンコク病院のどちらかを訪問した。ラ

マ9世病院の訪問では病院についての説明を受けた後、院内の施設内の見学を行った。バンコク病院の訪問では当初の予定が変更になり、院内見学を行った後、ラマ9世病院に向かい、そこで現地スタッフと質疑応答を行った。そのため、生徒によっては十分に情報収集することができなかつた者もいたが、一方で、清潔感があり、綺麗な病院の建物や、多言語に対応したスタッフの配置、国際的にも高い医療水準などの現状を目の当たりにし、これまでのタイの病院へのイメージが払拭されるとともに、研究テーマを再検討した班もあるなど、いくつかの気づきが得られた。

FWの前日に、国際医療NGO ジャパンハート 森徳郎先生より、ご自身の経験や信念をお話いただき、その後生徒の質問にも熱心にお答えいただいた。講演を通して、改めていのちを見つめなおす契機となり、課題研究に対する生徒のモチベーションが非常に上がった。



病院での質疑応答



バンコク病院外観



森先生の講演

ii ワットサケオ孤児院（格差・貧困領域 34名参加）

ワットサケオ孤児院は2000人近くの子どもが暮らしており、そのうちの8割は貧しい山岳地方出身の子どもたちである。格差・貧困領域の生徒は事前学習として、ワットサケオ孤児院の子どもたちに質問したいこと、交流で実施したいことを計画し交流に臨んだ。

当日は、孤児院の中高生と班ごとに、自己紹介や自国紹介などのアイスブレイクのあと、日本の遊びや、日本語の勉強を教えるなどの交流をした。その後、班ごとに孤児院の施設を見学し、教室や寝室、食堂などを訪れ、孤児院の子どもたちの生活の様子や学習内容について知ることができた。



ワットサケオでの交流

iii タマサート大学（防災・減災領域 23名参加）

昨年度に引き続き、タマサート大学が主催する防災学習プログラム「楽しく学ぶ防災教育」に参加した。ここでは、スワンクラーブ・ノンタブリー高校の生徒と交流、協働学習を行った。双方の代表による学校紹介、大学の宍戸大作教授による2011年のタイ大洪水の被害実態のレクチャーに続いて、本校の防災・減災グループの代表班が、課題研究の内容をを英語で発表した。後半

は、タイの高校生と10名程度のグループを組み、被災時にペットボトルを使って作る救命胴衣や、身近な材料を用いて食器の代用品を作るワークショップを行い、防災に関する意見交換をして交流を深



タマサート大学での交流

めた。終始リラックスした雰囲気で交流できたこともあり、帰国後も双方の情報交換が続き、課題研究においても大いに役立っている。

③ 交流活動

i クロントーイスラム視察・幼稚園交流

現地スタッフ先導のもとクロントーイスラム内を見学した後、スラム内にあるドゥアン・プラティープ財団及びシーカーアジア財団で講義を聴き、それぞれ運営する3つの幼稚園を訪問した。生徒は予め準備したおいた折り紙やシャボン玉などを用いて園児と交流した。



幼稚園交流のようす

スラム見学

ii トリアムウドムスクサ高校での交流

バンコクにあるトリアムウドムスクサ高校（協定校）の生徒と交流した。お互いに自己紹介を行ったあと、交流Ⅰ「自国紹介」として、自国の社会・文化・風習などについて、英語でプレゼンテーションを行った。次に交流Ⅱ「研究紹介」として、各自が取り組む課題研究について英語で説明した。その後、相互に用意していた質問を投げかけ、情報収集を行った。



高校交流のようす

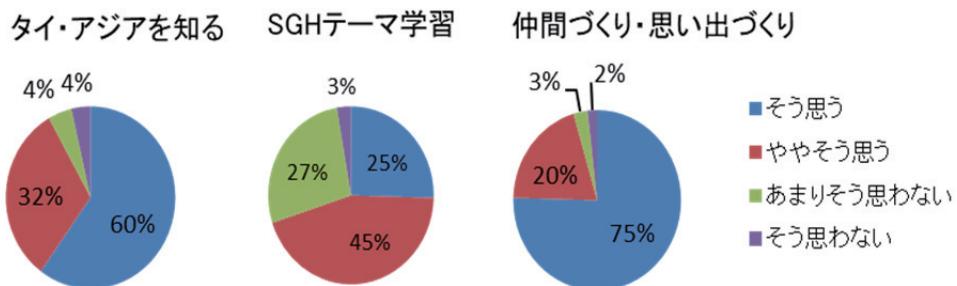
d 事後学習

研修旅行で得られた学びや気づきを班で共有し、明らかになったことと、依然として分からぬ・予測できないことを明確にした上で後の課題研究の活動に生かした。

（4）研修旅行に関する生徒アンケート結果

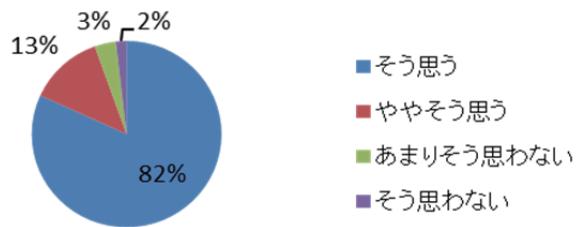
a 研修旅行の目的の達成度

研修旅行の目的は達成できたか。



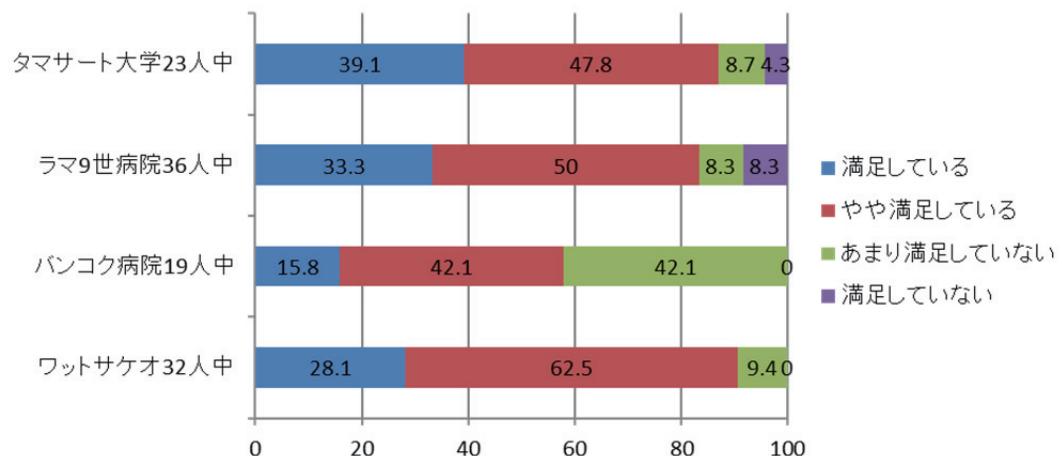
b 研修旅行全体の満足度

研修旅行は楽しかったか。



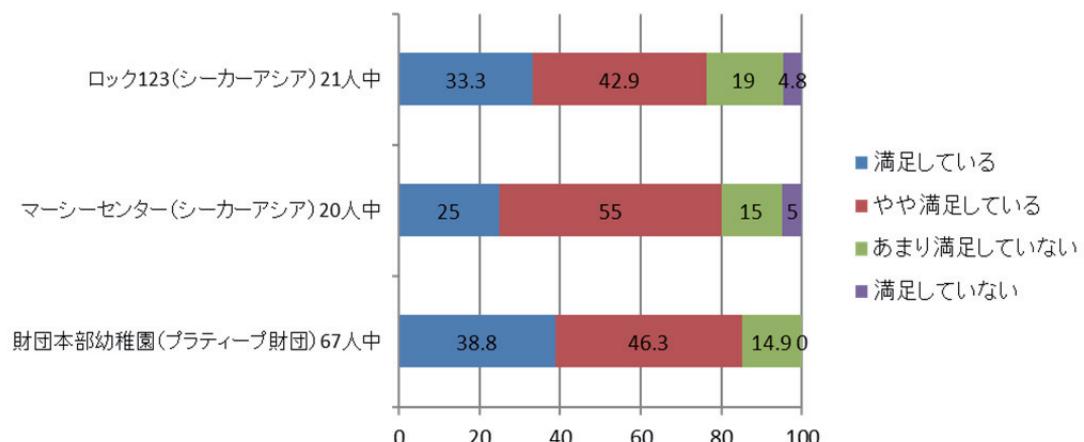
c フィールドワークに対する満足度

フィールドワークについては満足か。

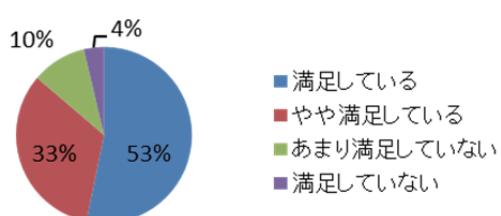


d 交流活動の満足度

幼稚園交流、スラム見学については満足か。



トリアムウドムスクサ高校での交流について満足か。



(5) 成果と課題

「病院見学など普通では体験できないことができた」、「この研修でタイについてよく知ることができた」など、研修全体に関しての満足度はかなり高く、アンケートでも肯定的な意見が多かった。その一方、「SGH の自分の研究に生かせるような質問をする時間を増やしてほしい」という意見も一定数あり、また、交流の時間が少ないと感じる者も多かった。FW 先のバンコク病院では、当日に急遽行程が変更になるなど、海外の研修旅行では致し方ない点もあるものの、改善の余地がある。高校生や大学生と交流などを通して、「コミュニケーション力」「多文化理解力」が高まったと考える。

(6) 海外研修旅行による生徒の変容の評価・分析

生徒の変容を見るため 2 年生全員に対してアンケート調査を事前事後に行った。アンケートは 4 件法で問い合わせ、回答を集計した。(4 件法の得点は「とてもそう思う」を 4 点、「まったくそう思わない」を 1 点とした。)

a 「3 つの力」の変化

「課題解決力」「コミュニケーション力」「多文化理解力」の 3 つの力に関するアンケートの回答の平均を(図 1)に示す。グラフの 3 つの力のいずれも伸びを示した。特にコミュニケーション力を図る設問の「英語以外の外国語を母語とする相手とでも、身振り手振りや簡単な単語を使ってコミュニケーションをとることに対する抵抗が小さい。」について事前→事後の得点が 2.58 点→3.01 点、「英語以外の外国語を母語とする相手とでも、身振り手振りや簡単な単語を使って意思疎通ができる。」については 2.47 点→2.82 点と上昇しており、英語を母語としない人達とのコミュニケーションを経験し、意思疎通が可能であると実感した結果であると考えられる。

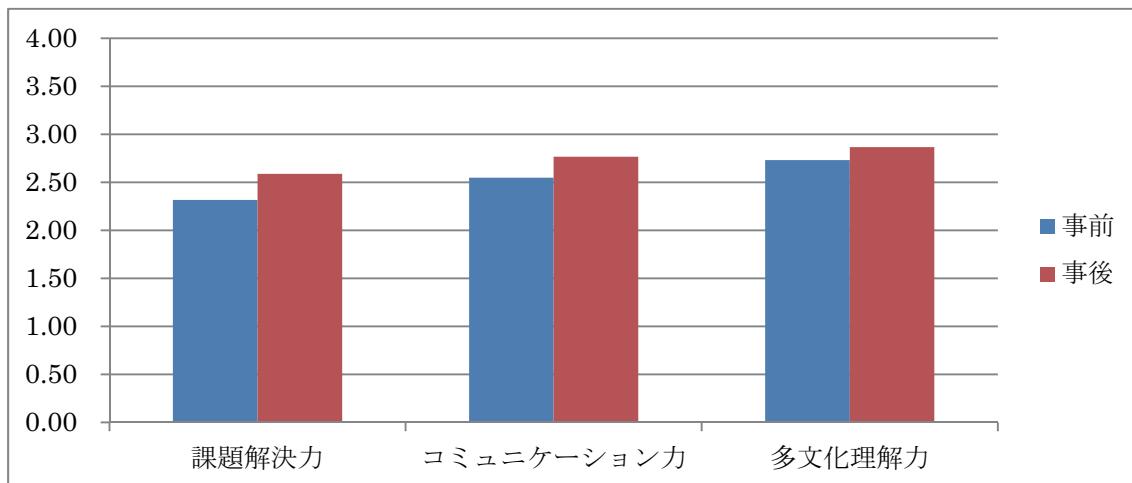


図 1

b 領域別の変化

各領域それぞれの「現状理解」「支援の在り方」「支援への関心」についてのアンケートの回答の平均を(図 2)に示す。概ね点数の向上がみられた。

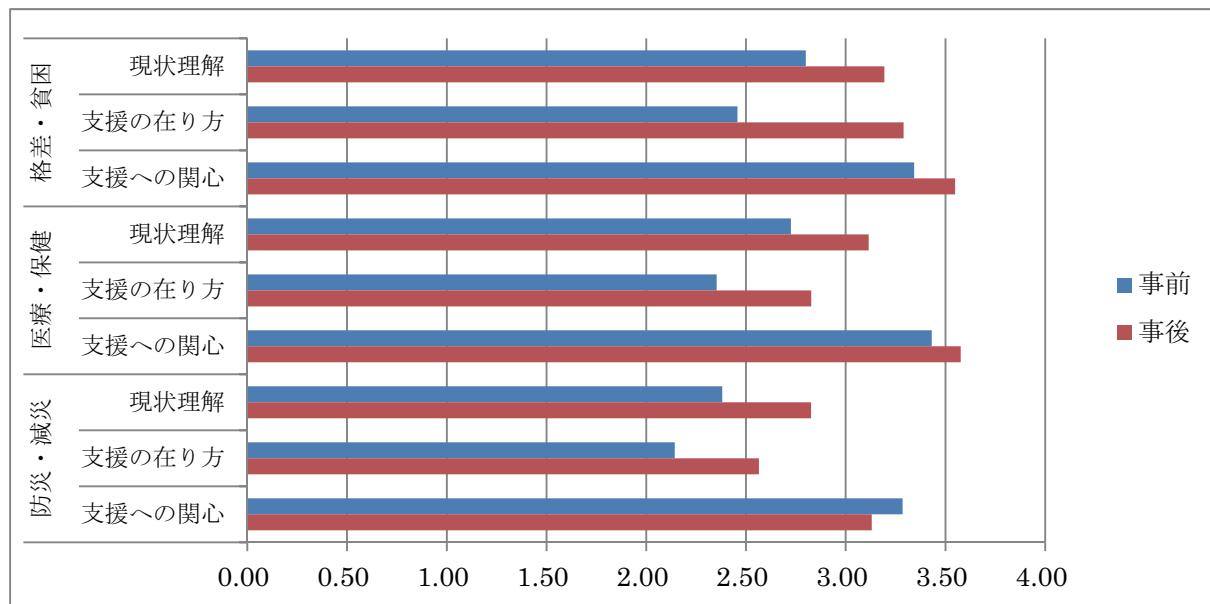


図 2

c 自由記述について

タイに関するイメージや知っていることについて自由記述形式でアンケート調査を行なった。事前の調査では、タイのイメージは「辛い食べ物がある」「香辛料」などの食事等の文化に関する項目が一番多く、最多の回答数 25 を示した。ついで宗教、気候、衛生や治安などの安全性についての記述が多くかった。スラムや貧困に関する記述は回答数 9 を示した。

研修旅行後のアンケート調査では、格差や貧困に関する記述が多く、最多の回答数 33 を示す。ついで国民性、国の発展に関する記述が多く見られた。昨年度と比較をするとほぼ同様の結果を示しているが、特筆すべきはタイと日本と比較している記述が多く見られ、比較することで新しい視点を持った記述が見られたことである。これは本学年の課題研究の事前学習時に「タイ」だけでなく「日本」「アジア全体」の視点をもつことをテーマとして位置付けたことが影響した可能性がある。

カテゴリー	回答数	記述内容
日本との比較 (+)	14	街はとても綺麗で日本より進んでいると感じた
		スラムのイメージが大きかったが実際には日本より優れている建物や地域もあった。
陽気な国民性	30	とてもフレンドリーで明るい人が多いと思った。
		街中で挨拶された。すごくにこやかだった。
貧困・スラム街	33	タイ全体が貧困、裕福なわけではなく、国の中で格差が信じられないほど大きい国だと感じた。
		正直もっとひどい状況だと思っていました。もっと物やお金に困っていて助けが必要なのかなと。けど實際見てみるとそれぞれが自分のために一生懸命頑張っていて少し印象が変わりました。
		発展途上国だから医療、格差、防災全てにおいてほとんど対応できていない国だと思っていたけれど医療に関してはそうでもなかった。でもタイの医療、防災の問題の根底は貧困だと思った。

5. 海外フィールドワーク（カンボジア）

（1）海外フィールドワークの概要

日程：令和元年8月18日（日）～8月23日（金）

場所：カンボジア（シェムリアップ周辺）

対象：1・2年生希望者（1年9名、2年19名 合計28名）

引率：教員4名、看護師1名、添乗員なし

目的：1. 海外で支援活動を行う団体と共に活動することで、その活動目的や運営の現状と課題について理解する。

2. 現地の支援に関する本質的課題や歴史的背景について、フィールドワーク（以下FW）体験を通して理解する。
3. 海外 FW での調査等を踏まえて課題研究を深化させる。また、課題研究の成果を訪問先の団体関係者等に向けて発表し、助言等を得るとともに、団体の活動に役立ててもらう。

この海外 FW は、課題研究の内容を踏まえながら、現地の支援の在り方と日本の社会・文化等を相対化することねらいとして企画したものである。現地での活動は、1年生は3カ所の団体をすべて訪問し広く学ぶようにし、2年生は2日間1カ所に留まってじっくり深く学ぶようにスケジュールを組んでいる。

一昨年度、昨年度と2年続けて参加生徒の100%が、次の学年の生徒にも薦めたいという結果からみても、生徒の満足度が高い海外 FW である。参加者の代表的な意見を以下に記載する。

- ・経済的に日本の方が裕福なので幸せだと思っていたら、カンボジアの人たちは常に楽しそうで、それに比べると日本人は余裕がないと感じた。
- ・カンボジアの人たちが、学ぶことに喜びを感じているところを目の当たりにし、私たち日本人は学べる環境の中にいながら楽しむことができているのかと疑問をもった。また、カンボジアでの支援について、もっと発信できたらよいと思った。
- ・現地の学生さんと交流できたことが嬉しかった。高校生の方々とは英語で話した。小学生の方々とは言葉が通じなくても言語を超えたコミュニケーションができ、自分の課題がわかった。

（2）日程表

日程表2019(海外フィールドワーク:カンボジア)

8月18日(日)	8月19日(月)	8月20日(火)	8月21日(水)	8月22日(木)	8月23日(金)
全員 起床	全員 起床	ボスコ 伝統の森	全員 起床	関西空港着 VN330便	
7:00	48期生(1年生) 起床	48期生(1年生) 起床	48期生(2年生) 起床	ボスコ 伝統の森	
7:30	1年生グループ A班 クマエ B班 SUSU C班 TLC	1年生グループ A班 クマエ B班 SUSU C班 TLC	8:00ホテル発	全員 起床	
8:00	8:30 関西空港集合		8:30ホテル発	関西空港着 VN330便	
8:30	ホテル発	ホテル発	ホテル発	入国後、荷物 を受け取り解散	
9:00	ホテル発	橋本様より、 SUSUの説明、 コミュニケーション ファクトリー見学	橋本様より、 SUSUの説明、 コミュニケーション ファクトリー見学	ロビー集合 ホテル出発	
9:30	クマエ: 山勢代表から クマエでの活 動報告、ゴミ 山視察	コンボンクリアソ ン・トレーナー補 助見学	バナナ ベーカリー 作品づくり1	伝統の森訪問 (DVD鑑賞&岩 本様のお話、 伝統の森散策	バイヨン中學 校で現地中學生 と交流
10:00	10:30 関西空港発 VN331便	橋本様より、 SUSUの説明、 コミュニケーション ファクトリー見学	クルクメール ハーブづくり 作品づくり1	ボスコ料理教室	モイモイ農園 で昼食
10:30	11:00	現地で働く女 性と一緒に昼 食	星食	伝統の森訪問 (DVD鑑賞&岩 本様のお話、 伝統の森散策	
11:30		星食	星食	星食	アンコールワ ト遺跡観光
12:00		星食	星食	星食	
12:30		星食	星食	星食	
13:00				移動	
13:30				移動	
14:00	13:25 ハノイ着	橋本様より、 SUSUの説明、 コミュニケーション ファクトリー見学、 パトロール、 バムリーフ、 ボックスづくり 体験	橋本様同行でオー ルドマーケット& ブリストルのショッ ピング。	CMAC カンボジア 地震対策 センター	
14:30		ライフスキルレ ーニング見 学、バーム リーフボックス づくり体験	バナナベーカリー 作品づくり2	シルクのハン カチ染色体験	
15:00		学生によるプレ ゼンテーション、 その後意見交 換	ホテルでシャワー、後、「ボスコfor「伝統の森」へ出発 (宿泊に必要なものはリユックなどにまとめて移動する)		
15:30	15:30 ハノイ発VN837便			移動	空港到着
16:00	シェムリアップへ 体験			移動	
16:30					
17:00	17:10シェムリアップ着				
17:30					
18:00					
18:30	タ食	ホテル着	ホテル着	夕食	各自、空港内 で食事をとる
19:00		夕食	ボスコ宿泊 夕食	ナイトマーケット	
19:30			伝統の森宿泊 夕食		
20:00					
20:30	ホテルチェックイン ミーティング				18:05 シェムリアップ 発、VN836便 00:20 ハノイ発、 VN330便
21:00					
21:30					
22:00					
22:30	就寝	就寝	就寝	就寝	

VNとは、ベトナム航空のことです。

(3) 活動内容

①実施までのスケジュール

5月半ばに募集を行い、6月初旬に保護者説明会を開催した。

②コース選択（8月19日および20日）について

2年生は、下記A～Cのうち一つを選択し、2日間同一団体でじっくりと活動するコースとした。一方、1年生は、活動初日（8月19日）は、午前中にクマエ、午後にSUSUプロジェクトを視察し、2日目（8月20日）は、元TLCの前原氏にTLCの活動を紹介してもらい、現地の支援活動の目的や現状・課題について学んだ。

Aコース：一般社団法人KUMAE（クマエ）

ゴミ山のゴミ拾い生活から子どもたちを開放し、自立支援のためにバナナペーパーをつくって販売している。

Bコース：SUSUプロジェクト

女性の自立支援施設。い草製品を中心としたソーシャルビジネスを展開している。

Cコース：ザレイク・クリニック カンボジア（TLC）

トンレサップ湖における水上生活者の生活向上について医療・保健衛生の側面から支援している。

③事前学習

a A～Cコースに関する説明

FW中の各コースの現地での生徒の活動内容について下記のように説明した。

Aコース：ごみ山支援をしている団体の活動視察、バナナペーパーの作品作りをする。

Bコース：女性支援の団体において救急処置法とゴミ分別に関するプレゼンを実施する。

Cコース：支援団体の活動と水上生活者の現地視察を行う。また、現地の医師及び看護師の前で、考案した「手洗い習慣」に関する教育教材を発表し、助言をもらいながら意見交換する。

b 各活動に関する事前学習

参加生徒が、現地の状況や活動経緯を事前に学習することで、現地での活動がさらに深まり、充実することをねらいとした。事前学習の内容は下記のとおり。

Aコース：一般社団法人KUMAE（クマエ）がつくっているバナナペーパーで昨年の生徒たちが作成した栞を見せて、今年度も生徒作品を文化祭で販売することを確認した。栞などは現地で作成するため事前にデザインを考えておくように指示をした。

Bコース：現地の状況について、SUSUプロジェクトの橋本沙耶加氏とSNSをとおして情報交換を行った。本校生徒のアンケート結果等を現地に送り、それらを参考にして現地スタッフが今年度の発表テーマを作成した。

Cコース：元TLCで働いていた看護師の前原とよみ氏を取材したNHK番組を視聴し、その後、海外FW担当者が現地の課題についてレクチャーした。また、医師や看護師が使用する教育教材を作成し、発表することが必要であることを伝えた。

④現地での活動内容

a コース別活動1（8月19日、20日）

【2年生の活動】

Aコース：一般社団法人KUMAE（クマエ）

1日目は、現地スタッフのKUMAEの活動に関する説明を聴き、その後、シェムリアップ郊外のゴミ山を見学した。その後、バナナペーパー作品コンセプトを全員で考え、市内のKUMAEショップで製品

の買い出しをした。

2日目は、帰国後に販売するバナナペーパーの作品（葉とポストカード）を制作した。



Bコース：SUSU プロジェクト

1日目は、現地のマーケットを見学した後、SUSUの工員ヨム氏の家を訪問し、農家の生活とシングルマザーとしての暮らしなどについて話を聞いた。その後、工房を訪問し、現地の社会課題「救急処置の方法とゴミの分別」について、事前に生徒が考えていた提案を、女性工員の方々に対して発表した。午後は、工房での仕事を見学した後、工員達から指導を受けてパームリーフボックス作りを体験した。

2日目は、SUSUの工員ラー氏の家を訪問し、農家の生活を見学した後、家族や近所の人たちに対して「救急処置の方法とゴミの分別」について発表した。午後はシェムリアップ市内オールドマーケットのSUSUショップを訪問し、オフィスにて今回の訪問と発表について振り返るとともに、SALASUSUの取り組みに対する提言を行った。スタッフの方々からは「高校生の視点から貴重な意見をもらえた」と評価していただいた。



Cコース：ザレイククリニック・カンボジア

1日目の午前中は、TLCのジョン代表とTLCの看護師とともにトンレサップ湖を観察した。午後は、TLCの活動報告や現状についてレクチャーを受けた。

2日目は、午前中TLC本部にて、ジョン代表とTLCの看護師の前で「手洗い習慣」に関するプレゼンを行い、アドバイスを受けた。午後は、水上生活者の支援に関する課題とその解決策に向けた意見交換を行った。



【1年生の活動】

1日目は、午前中はAコース（一般社団法人 KUMAE（クマエ））を訪れ、活動の説明を受けたのち、ゴミ山見学を行った。午後からはBコース（SUSUプロジェクト）を訪れ、女性支援あり方についてレクチャーを受け、工場見学を行った。

2日目は、午前中はクルクメールを訪れ、代表の篠田氏から、ハーブを使用した会社設立に至る経緯や体験談を話していただいた。その後、実際にバスハーブ作りとココナッツオイル作りを体験した。午後は現地スタッフの案内のもと、シェムリアップのキリングフィールドを訪れ、ポル＝ポト政権下の歴史について説明を受けた。



KUMAE 訪問



SUSU 訪問



クルクメール訪問



キリングフィールド

b 宿泊別活動（8月20日、21日）

【クメール伝統の森での活動】

クメール伝統の森は、「カンボジアに100人の村を作った日本人」である森本喜久男氏がつくった森である。ここでは、クメールシルクを再興し、持続可能なシステムを作っている。

20日は伝統の森に宿泊し、17時から22時までしか電気がつかない生活や水瓶の水で水浴びをする生活を経験した。

21日は、森本氏を継いだ岩本みどり氏から、「100人の森」ができた経緯とこの森における支援の在り方についてレクチャーを受けた。その後、クメールシルクのハンカチで草木染め体験を行った。

【ボスコハウスでの活動】

午前中は、元TLC看護師の前原氏と現地の日本語学校のカンボジアの生徒と共にカンボジア料理を作った。午後は、前原氏が支援者として関わる小学校を訪れ、小学生と交流した。



c 現地中学校との交流（8月22日）

最終日の午前中にバイヨン中学校を訪れ、現地の生徒と交流した。ここでは、ポル・ポト時代に家族を殺害されたチア氏から当時の様子について話を聴き、その後、日本とカンボジア、それぞれの遊びや文化による交流を行った。日本からは、「羽子板」「折り紙」「紙風船」「竹とんぼ」を紹介した。また、カンボジア生徒からは、ピアニカの演奏を披露してもらった。



d その他の活動

最終日には、アンコールワット、アンコールトム遺跡を見学した。



⑤事後学習

A～Cの活動場所について、本校文化祭においてポスター発表した。またKUMAEのグループは、自分たちが制作したバナナペーパーの葉とポストカードを販売した。

(4) 生徒アンケートアンケートの評価・分析

(1) の海外FWの目的1および2に関する参加生徒の変容を測るため、海外FW実施前(7月18日)の事前アンケート並びに海外FW実施後(8月27日)の事後アンケートを行い、分析を行った。

a アンケートの設問と各設問のねらいについて

アンケート内容の大きな項目は以下の4つである。

- ① NGOによる海外での支援に必要と思うリソースについて(12項目から3項目を選択)
- ② 人生観について(12項目、4件法)
- ③ 英語によるコミュニケーションについて(4項目、4件法)
- ④ NGOによる支援活動に対する理解と自身の課題研究との関連(4項目、4件法)

①については、研修前にはほとんど知らなかったNGOの現実と触れることで、活動のリアリティをどの程度受けたか。また、②については、これまで接すことのなかった海外の諸問題に直接触れることにより、人生観にどのような影響を及ぼしたか。③は、英語を実際に使う機会を持つことで、どの程度の影響があったか。について調査することを目的とした。④は、NGOの活動に対する理解の深化と自身の課題研究とのマッチングを調べることを目的とした。

b アンケートの結果と評価

① 必要なりソースへの理解

NGOによる海外での支援に必要と思うリソースについて、12の項目をあげ、その中から3項目を選ばせた。2年生についてはおもな研修先であるKUMAE、SUSU、ザレイククリニック(TLC)別に集計し、3つのNGOを訪問する1年生は全体の回答数を集計した。

研修前の回答では、KUMAEでは「現地の制度」、SUSUでは「現地での教育」、TLCでは「現地的人的支援」が大事と考える意見が多かった。また、現地の状況をほとんど知らない1年生は、「資金」と「現地での教育」をあげるもののが多かった。

研修前

	資金	日本の 人的援助	現地の 人的資源	他の國の 人的資源	活動 施設	設備	現地 での 教育	活動 の周 知	地域 との 連携	国と の連 携	現地 の制 度	自立 の促 進
KUMAE	1	0	3	0	0	1	4	0	0	3	7	2
SUSU	3	1	1	0	2	1	4	0	1	0	3	2
TLC	1	1	3	1	0	1	1	0	0	2	2	0
1年生	4	3	2	0	0	1	4	1	0	1	3	0
合 計	9	5	9	1	2	4	13	1	1	6	15	4

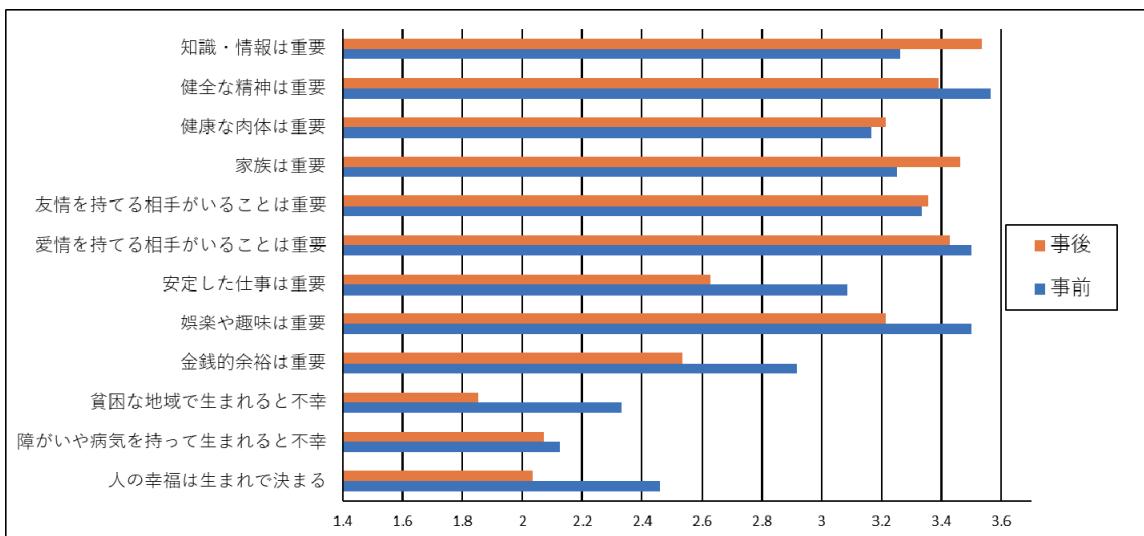
研修後は、KUMAEでは「現地の制度」よりも「現地での教育」や「自立促進」が、SUSUでは「資金」と「現地での教育」が、TLCでは「現地での教育」がそれぞれ大切という回答が目立った。また1年生では、「現地での教育」や「自立の促進」に回答が多かった。研修の前後で、全体として「現地での教育」、「活動の周知」、「地域との連携」、「自立の促進」を必要なリソースとしてあげる生徒が大きく増加した。

研修後

	資金	日本の 人的援助	現地の 人的資源	他の國の 人的資源	活動 施設	設備	現地 での 教育	活動 の周 知	地域 との 連携	国と の連 携	現地 の制 度	自立 の促 進
KUMAE	0	1	0	0	0	0	5	0	3	2	0	6
SUSU	4	0	2	0	1	3	4	2	3	1	0	3
TLC	0	2	3	0	0	1	4	1	1	0	0	3
1年生	3	0	3	0	0	3	5	3	2	1	1	6
合 計	7	3	8	0	1	7	18	6	9	4	1	18

② 人生観への影響

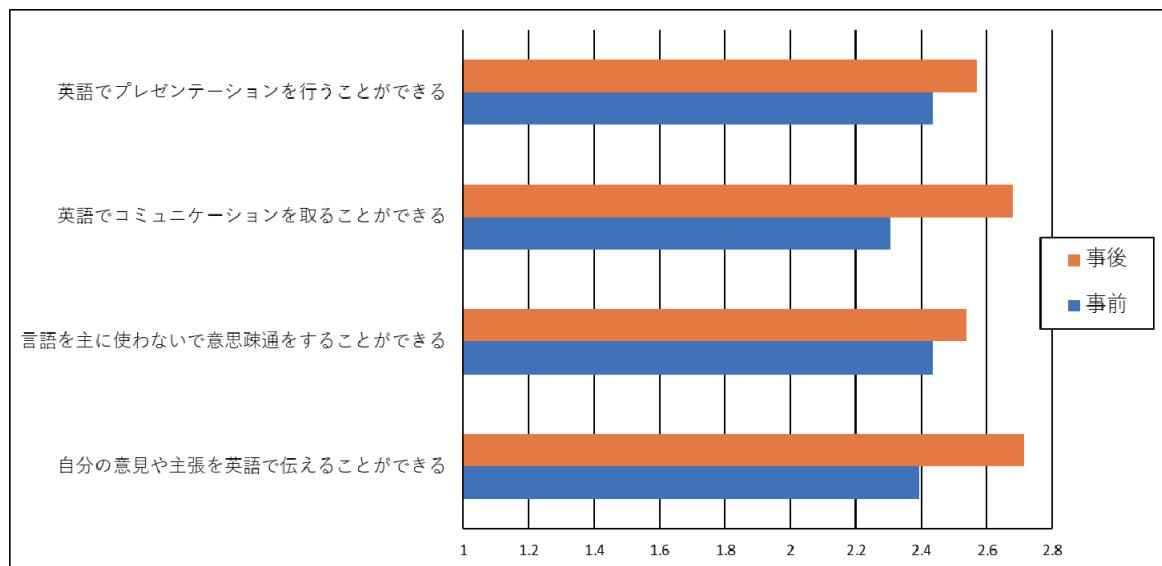
図II-12はFW参加生徒の人生観についての事前と事後の平均点の変化を示している。図の項目「人の幸福は生まれで決まる」「貧困な地域で生まれると不幸」の2項目については、事前と事後の間で、著しい低下が見られた。また、知識・情報や健康な肉体、家族や友情を持てる相手の存在の重要性について、事後での増加が見られた。お金や地域、障がいの有無が、そのまま人生の幸福や不幸につながるわけではないと考えるようになったことが分かる。こうした価値観の変化は、カンボジアへの研修によって人生観に大きな変化をもたらした可能性を示唆している。



図II-12 人生観に関する事前・事後での得点変化

③ 英語によるコミュニケーションの変化

英語によるコミュニケーションについての自信は、4項目すべてで事前より事後の方が上昇した（図II-13）。研修先ごとの変容では、「英語でコミュニケーションを取ることができる」について、すべての研修先（1年生も含む）で高くなった。また、英語でプレゼンテーションを行ったザレイククリニック（TLC）を訪れた生徒は、もっともプレゼンテーションの得点が高くなかった（図II-14）。このことから、実際にプレゼンテーションを行うことで生徒の英語の自信・能力に良い影響を与えていたことが示唆される。しかしそれに対して、1年生の生徒において、「英語でプレゼンテーションを行うことができる」「自分の意見や主張を英語で伝えることができる」という項目で得点が低くなかった。プレゼンテーションが思ったようにできないことや、英語による質疑応答などにうまく対応できないという経験が影響したものではないかと思われる。



図II-13 英語によるコミュニケーションに対する事前事後の変化

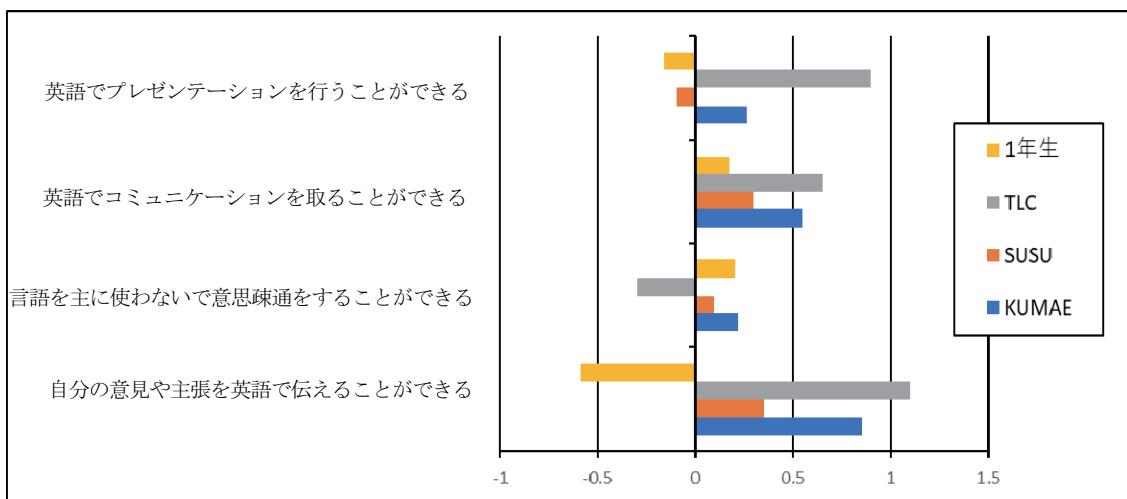


図 II-14 研修先ごとの英語能力の変容

④ NGO による支援活動に対する理解と自身の課題研究との関連

3つのNGOの活動に対する興味の増大は顕著で、肯定的意見が97%であった。支援活動の課題の発見にまでいたった生徒が86%と数値が下がり、興味はあるが課題が発見できていない生徒が少なからずいることがわかった。また、クメール伝統の森の活動では、課題発見にいたった生徒が少なかった。ボスコハウスの活動では、歴史的背景の理解がやや低い結果となった。

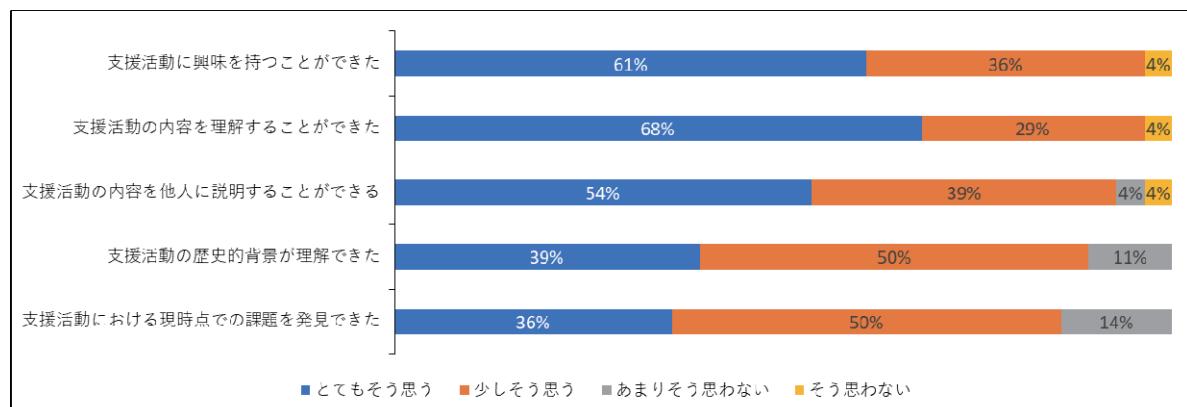


図 II-15 3つのNGOの活動に対する理解

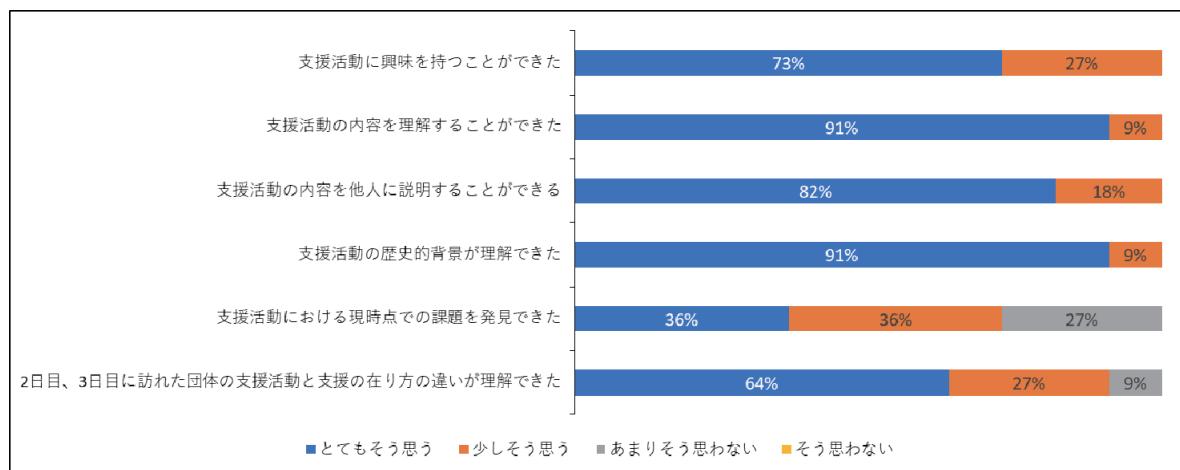


図 II-16 クメール伝統の森の活動に対する理解

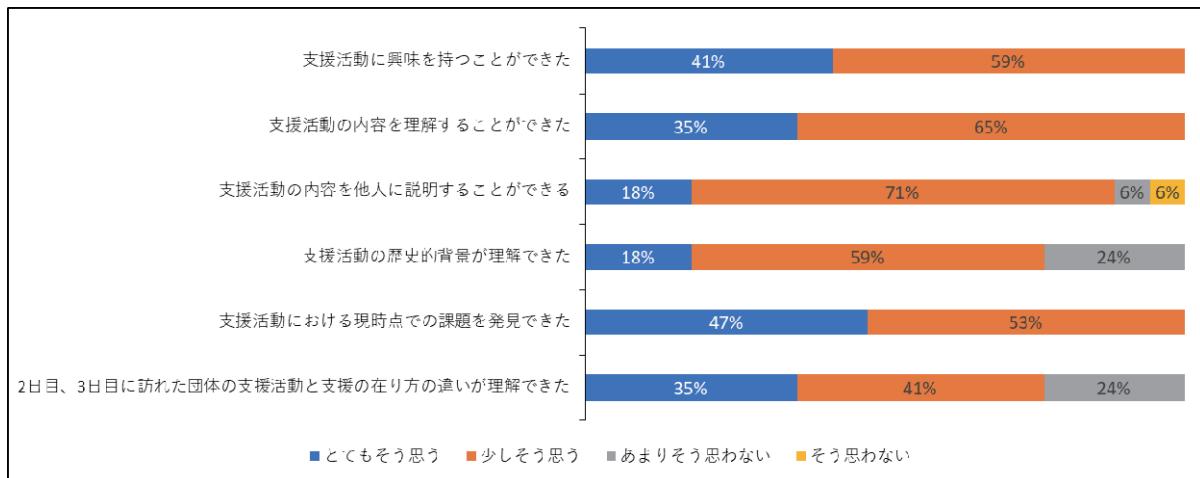


図 II-17 ボスコハウスの活動に対する理解

自身の課題研究との関係については、新しい問題意識の獲得や別の視点からの知見の獲得などが高い値になっており、多角的な問題意識や視点が得られたことが評価できる。また、FWを通じて、カンボジアの課題についての発見ができた生徒が多かったことがわかる。

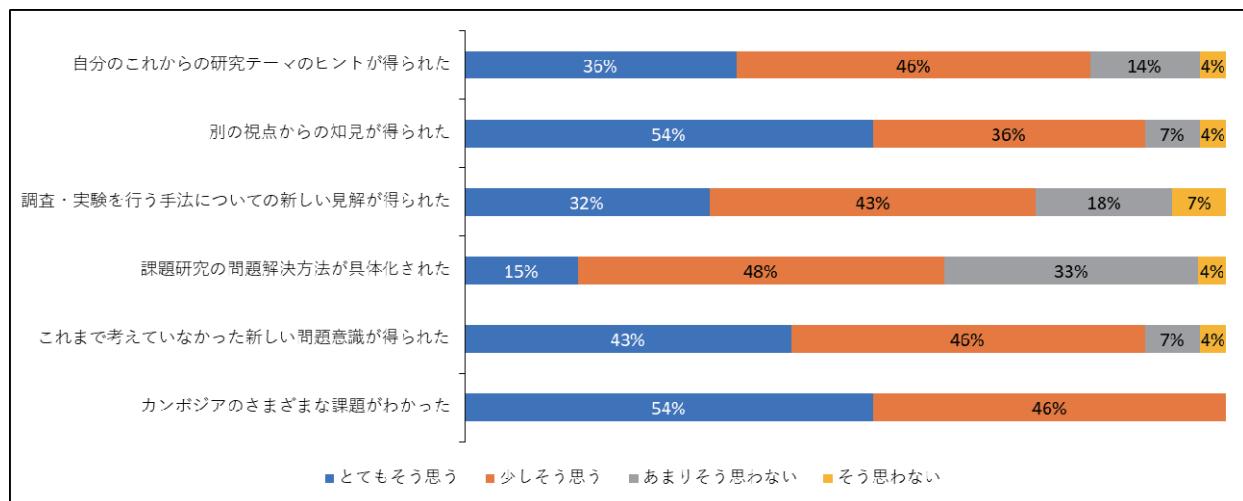


図 II-18 自身の課題研究との関係

(5) まとめ

カンボジアにおける海外 FW では現地の NGO 等との連携が密になりプログラムも安定してきている。海外 FW に参加したことで成長した生徒の様子は前述の通りである。今後、成果を継続するためには特に経済的な面での工夫が必要となろう。

6. 課題研究発表会

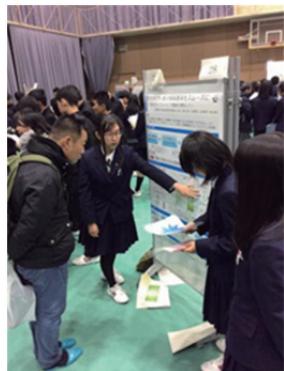
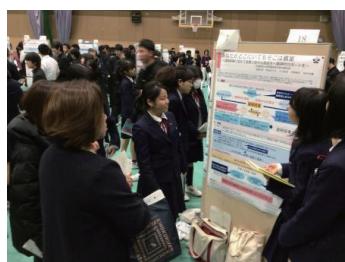
令和元年度における課題研究の成果を発表するため、令和元年1月11日に下記の内容で実施した。なお、教員研修・交流会については令和元年11月9日に実施している。

(1) 概要

令和元年1月11日（土）課題研究発表会（会場：本校体育館など）

参加者 本校1・2年237名、招待校生徒61名、来賓17名、学校関係者28名、企業等、3名、保護者55名、合計401名

時間	プログラム
9:00～9:10	開会
9:10～11:20	課題研究口頭発表 ・「A グループ」（体育館多目的室） ・「B グループ」（大講義室） ・「C グループ」（合同教室） 3領域「医療・保健班」「防災・減災班」「格差・貧困班」から校内選考19班と「附属平野中学校生徒：総合的な学習の時間での研究発表」を3グループに分け発表
12:20～12:50	ポスターセッション1（奇数班）高校1・2年および中学校、招待校
12:50～13:20	ポスターセッション2（偶数班）高校1・2年および中学校、招待校
14:10～15:10	優秀班による口頭発表 (1) 防災・減災 1年1班 「此花区を救いたい。～地震発生時の外国人観光客の避難・伝達方法を考える～」 (2) 格差・貧困 1年1班 「小学校の学習習慣の定着～できたかな？リストを通じて～」 (3) 医療・保健 2年13班 「訪日外国人への医療環境の完全 ～多言語対応・デジタル化した問診票の作成と活用～」
14:30～	招待校による口頭発表 (4) 大阪府立北野高等学校「ケーススタディハウスと私たち」
14:50～15:05	講評
15:05～15:10	閉会



(2) 課題研究 発表タイトル

防災・減災グループ

1年1班☆	5名	此花区を救いたい。～地震発生時の外国人観光客の避難・伝達方法を考える～
1年2班	4名	このままじゃ、私、死んぢやう ～あなたの家の家具固定を見つめてもらう～
1年3班	3名	障がい理解と共に安心できる国へ ～健常者と障がい者が安心できる避難所を考え発信する～
1年4班	3名	171を知っていますか？～家族を繋ぐ171～
1年5班	3名	災害前に備えをする人を増やす～備える物リストの提案～
1年6班	5名	減らそう負担、変えよう避難所生活
1年7班☆	5名	地震から外国人留学生を救う！！～新しい防災ガイドで防災意識を高める～
1年8班	3名	『津波でんでんこ』と新しい避難方法
1年9班	4名	あいさつ DE 防犯
1年10班☆	3名	聴覚障がい者の情報獲得をスムーズに～「使えるリーフレット」で情報を可視化して～
2年1班	5名	災害情報をいつでもどこでも知るために～SNSを利用して伝えよう～
2年2班	5名	タイの地方での洪水の被害者を減らすには～警報システムの導入～
2年3班	4名	タイ国内のボランティア活動を促進する ～タイ人のボランティア意識をポスターにより高める～
2年4班☆	4名	タイの防災意識を向上させるには～防災教育で情報提供を～

格差・貧困グループ

1年1班☆	4名	小学生の学習習慣の定着～できたかな？リスト～を通じて～
1年2班	4名	商店街を活性化させよう！～商店街ならではの魅力が伝わるようなチラシを使って～
1年3班	4名	ひとり親家庭の貧困をなくす ～第二のセーフティーネット“困窮者自立支援制度”を広める～
1年4班	4名	在日外国人留学生のお悩み解決！～お助けブックの配布とその効果とは～
1年5班	3名	学習格差の連鎖を断ち切れ！ ～子ども食堂の活用で貧困家庭の子供に明るい未来を～
1年6班	4名	地域交流を通して子どもたちの心の壁をなくそう～児童養護施設における適切なコミュニケーション能力の向上とアタッチメントの形成～
1年7班	3名	離職ワーキングプアの予防～チラシを使って注意喚起～
1年8班	3名	買い物を新たな楽しみに！～介護施設の入居者に買い物ツアーを実施し交流の場を増やす～
1年9班☆	4名	日本語指導教育センター校の教員不足 ～教員の負担軽減を目指し、大学の制度を活用～
1年10班	5名	UN→KNOWN～ホームレスの生活実態の認知度を高め、暴行事件を減らす～
1年11班	4名	UP！読書量！～低コストの図書通帳を用い小学生の読書意欲を向上させる～
1年12班	4名	フードバンクを広めよう～マーク作成で、食品ロス問題に取り組む～
2年1班	4名	タイにおける移民の言語教育～子供へ識字を～
2年2班	3名	貧困の連鎖に潜む意識的な貧困への言及～教育を通じた長期的な支援の重要性～
2年3班☆	4名	タイ王国における国内外のごみ問題の改善策は？ ～絵本・リーフレットを通して一人ひとりができるを見つけよう！～
2年4班	5名	絵本の読み聞かせを通じた言語活動の向上 ～カンボジアにおける日本語教育を事例に～
2年5班	3名	タイ東北部の子どもたちに夢を！～総合学習の実施で将来の選択肢を広げる～

2年6班	5名	タイのスマートゴミを整理しよう ~分別の意識をつけ、処理を手軽にする~
2年7班	4名	カンボジアの女性が十分な生活を送るために ~チラシを作成し SALASUSU が実施する study tour の来場者数 UP ~~
2年8班☆	5名	日本における外国人労働者を取り巻く問題 ~問題認知で解決を図る~
2年9班	4名	バンコク市内のドラッグ使用者を減らす ~「白い学校」プロジェクトを通して~

医療・保健グループ

1年1班	4名	在日外国人の結核罹患に対する取り組み
1年2班☆	4名	仕掛け学を用いたインフルエンザ予防 ~つい押したくなる消毒用エタノールで習慣化できるか?~
1年3班	3名	市販薬による薬物依存 ~みんなに知ってもらう~
1年4班	4名	過労死を減少させるために ~SNS を用いて労働者の精神負担を減らそう~
1年5班	3名	災害時に感染病を減らすためには
1年6班	3名	運動不足による生活習慣病のリスクへの軽減
1年7班☆	5名	あなたがどこにいてもそこは教室 ~長期入院中の高校生へ精神的サポートを~
1年8班☆	3名	健康寿命をのばそう! ~ロコトレで膝関節症を予防できるのか~
1年9班	3名	AI 医療と未来の医療について ~AI 医療は医師不足に対して有効な打開策になる~
1年10班	5名	児童期における歯の磨き方改革 ~フロス動画でデンタルフロスの習慣を広めよう~
2年1班☆	4名	訪日外国人の熱中症対策 ~うちわを用いて東京オリンピックでの熱中症被害を減らす~
2年2班	4名	カンボジアの健康への道しるべ ~カンボジア独自の大人的フードガイドで栄養状態を改善~
2年3班	3名	タイの人々の食生活を改善するには? ~ビタミンA、B1、B2 を多く摂取することが有効的である~
2年4班☆	3名	バンコクの公立病院の待ち時間を減らすには ~受診ガイドを作成する~
2年5班	4名	避難所生活、対策してますか? ~イタリアの災害対策・ボランティア意識の高さを取り入れろ~
2年6班	3名	タイで交通事故による死者数を減らすには ~ヘルメットの着用率を上げよう~
2年7班	4名	タイのヤングケアラーを救え ~日本のケアラー手帳を活用する~
2年8班☆	4名	感染症に効果的な衛生教育とは ~正しい手洗いとオリジナル石けんの活用~
2年9班	4名	日本人旅行者の下痢症患者を減らす ~注意喚起ポスターの作成による予防意識の向上~
2年10班	4名	カンボジアのごみ処理問題を解決するには? ~生ごみの家庭内処理を行う~
2年11班	4名	タイでごみ捨ての習慣をつけるには ~デポジット制度によってゴミを捨てる習慣をつけよう~
2年12班	5名	タイで水害時に流行する感染症の予防 ~各家庭で救急セットを常備する~
2年13班☆	3名	訪日外国人への医療環境の改善 ~多言語対応・デジタル化した問診票の作成と活用~
2年14班	3名	タイの医師の負担を減らすには ~よりよい問診票を提案する~
2年15班☆	3名	Dengue熱の感染を予防するには ~日常的にできる方法でボウフラを減らす~
2年16班	2名	タイの幼稚園の子の歯の健康を守る ~7020 運動を勧める~
2年17班	5名	タイで起こる薬の飲み合わせの事故を防ぐ ~電子版お薬手帳で事故を防げ!~

附属平野中学校

中3年1☆	4名	KABI in the world ~About KABI in water bottle~ (口頭発表のみ)
中3年2	1名	もしもの話 ~江戸幕府は、仏教とキリスト教を両立できなかつたのか~

中3年3	1名	学校建築における緑化環境について～なぜ学校に緑は必要なのか?～
中3年4	1名	減塩レシピを作ろう～おいしく減塩する方法～
中3年5	1名	服装は心の表れなのか?～ファッショングが示す、その人の心理とは?～
中3年6	3名	春の悪魔を倒せ～食生活と生活リズムで花粉を乗り切る～
中2年7☆	1名	動物実験の実態～動物実験に対する賛否と実験施設～
中2年8☆	2名	開けやすいファスナーを作るには～どんな人でも開けることができるファスナー～
中2年9	5名	年金について考えよう～あなたは年金について知っていますか～
中2年10	2名	アフリカの貧しい子供たちが教育を受けるには～貧困と教育の現実～

招待校

北野高校☆	5名	ケーススタディハウスと私たち
近畿大学附属高等学校	1名	政府による幼児教育無償化案の問題点と改善案
京都市立日吉ヶ丘高等学校	3名	東山区を共生の町に～我慢のない町づくりを～
関西大学高等部①	1名	京都市における民泊の課題と現状
関西大学高等部②	1名	ターチンを用いた地域プランディング
関西大学高等部③	1名	外国人労働者の増加に向けての日本の変化と処遇
関西大学高等部④	1名	「伝える」ために必要なこと一人の前で話す力一
関西大学高等部⑤	1名	浮体式洋上風力発電の安定性における実験的検討
関西大学高等部⑥	1名	藻類は、タンパク質不足の救世主になりえるのか?
清風南海高校①	4名	若者の文化的関心
清風南海高校②	3名	若者の死生観と医療行為(出生前診断・安楽死)
大阪府立長尾高等学校①	4名	学校周辺の地震・台風被害とその復旧
大阪府立長尾高等学校②	4名	学校周辺の断層の確認
神戸市立葺合高等学校①	2名	幼児の第二言語獲得について
神戸市立葺合高等学校②	2名	早生まれの子ども～誕生日が原因で生まれてしまう劣等感とその対策～
神戸市立科学技術高等学校	4名	一般家庭における1年間に消費する魚の消化管に含まれるマイクロプラスチック
甲南高等学校①	1名	避難所でペットと共存していくためには?
甲南高等学校②	1名	復興住宅における居住者である高齢者の孤独死を減らす方法とは?

(3) 参会者アンケート

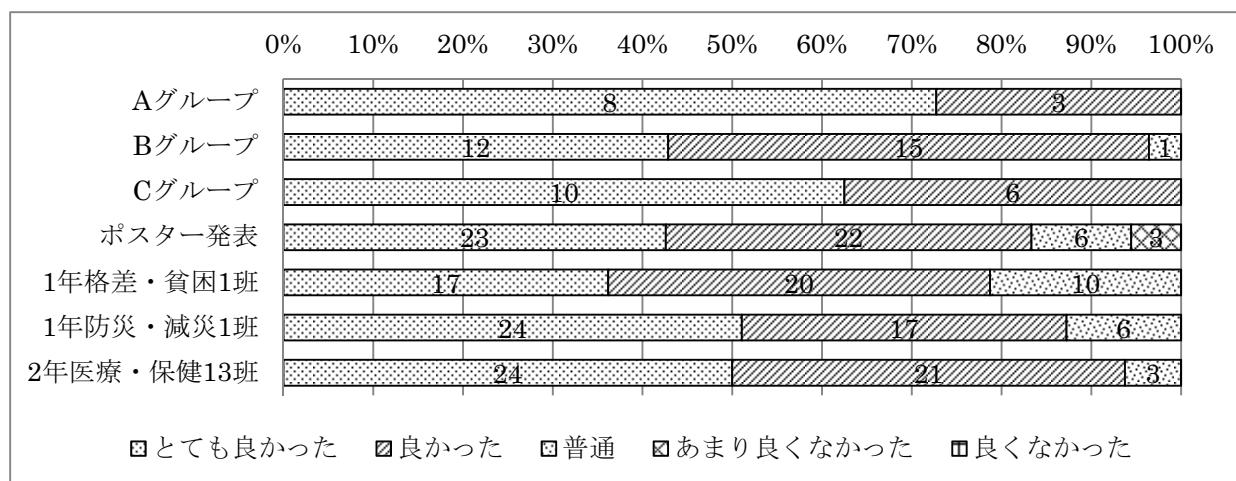
2020年1月11日(土)の課題研究発表会の参会者に対して行ったアンケート結果について報告する。回答者の所属と人数を表に示す。

所属	附属 高校生 保護者	附属 中学生 保護者	来賓	運営 指導 委員	発表校 生徒	発表校 教員	他中学 校教員	他高等 学校 教員	本校 TA	その他	無回答	計
人数	11	0	8	0	33	1	2	1	4	19	1	80
割合	13%	0%	10%	0%	41%	1%	2%	1%	5%	23%	1%	100%

a 各発表に対する参会者の印象と分析

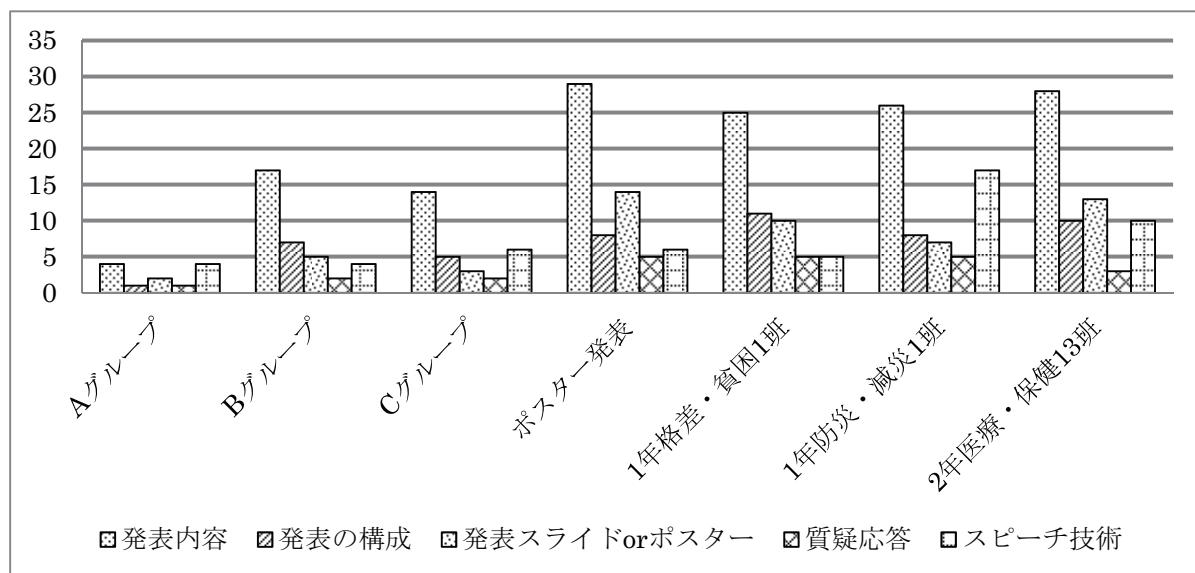
課題研究発表会は、午前中に校内選考で選ばれた18班と附属中学校の3班が、3つの会場（体育館・多目的室・大講義室・合同教室）に分かれ、口頭発表を行った。それぞれの会場で、審査員3名ずつ（校内教員3名ずつ）が、配属され評価を行った。午後は本校生徒1・2年全員と、附属中学生、招待校がポスター発表を行い、その後、午前中の口頭発表の評価が高かった上位3班（1年格差・貧困1班、1年防災・減災1班、2年医療・保健13班）と、招待校である北野高校の生徒が口頭発表を行った。以下のグラフは午前のそれぞれの会場での発表に対する参会者の印象を示す。

アンケートに協力いただいた参会者は、80名だったが、全ての発表を見た参会者は少なかったため、以下のグラフは質問項目に未記入もしくは「発表を見ていない」の人数は省略している。アンケートは「とても良かった」から「良くなかった」までの5件法で集計しているが、「良くなかった」という解答は全ての項目で見られなかった。ポスター発表で、「あまり良くなかった」の項目に回答があったが、それ以外の項目では、「あまり良くなかった」の回答はなかった。



図VI-1

次に、それぞれの発表に対して評価に良い影響を及ぼした項目を「発表内容」「発表の構成」「発表スライド・ポスター」「質疑応答」「スピーチ技術」の5つの項目から選んでもらった（複数回答可）結果を下のグラフに示す。

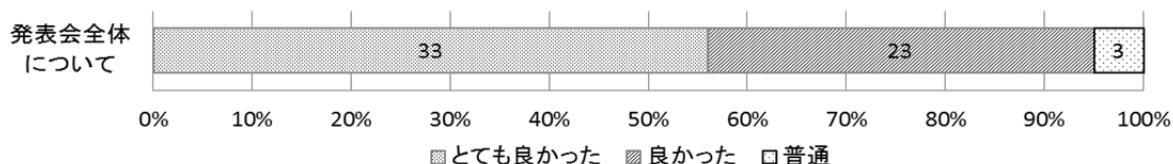


ポスター発表に関しては、「発表内容」が評価に起因しているとの答えが多かった。図VI-1 でのポスター発表の評価に対して、回答者の 80%以上から「とても良い」もしくは「良かった」の評価をいただいた。この点からも、各班の研究内容が、それぞれ充実してきたと考えられる。

午後の 3 つの班の口頭発表に関しても、「発表内容」が評価に影響を及ぼしたようである。選抜された 3 つの班に対する評価は、全ての班に対して回答者の 75%以上から「とても良い」もしくは「良かった」の評価をいただいた。その点からもエビデンスに基づく研究と、論理性のある展開が、肯定的な評価に繋がったと考えられる。また、1 年格差・貧困 1 班は「発表の構成」を、1 年防災・減災 1 班は「スピーチ技術」を、2 年医療・保健 13 班は「発表スライド」の項目が、「発表内容」の次点の評価に影響を及ぼした項目であった。各班の個性が評価された発表であったと考えられる。

b 参会者の発表会全体に対する印象

発表会全体の印象についてのアンケート結果を下に示す。5 件法で集計しているが、「あまり良くなかった」「良くなかった」という解答はなかった。



c 参会者からのご意見

来賓の方

- ・研究の目的を明確にする工夫もあっていいかと感じました。
- ・中学生の報告を聞く機会があり、非常に良かった。
- ・各チーム異なる課題に取り組んでいます。この課題の組み分けのご苦労にもっとも感銘を受けました。

発表校生徒

- ・多くの高校の生徒の方と発表し合う機会をいただき、ありがとうございました。
- ・発表人数（グループ数）の割に場所が狭かったので、スペースにゆとりを持たせるとありがたいです。
- ・明るい雰囲気の司会・進行で、興味を持って聞くことが出来た。
- ・自分たちで問題を解決するためにアクションプランを立てて行動を起こしているので、その点を参考にしていこうと思いました。
- ・いろいろなポスターを比較してみることができた。
- ・楽しかったです！ありがとうございました。
- ・できたかな？リストをやろうと思った。
- ・とてもよい発表がたくさん多く、興味をそそられる内容だった。
- ・他校の発表会に参加して、とても学べる部分が多くかったです。ポスター発表の構成や配置はとても効率よく良いと思いました。
- ・発表を見てくれた人が発表者に直接、意見を書いた紙を渡せるのが良いと思った。また、ポスターの配置が有利不利の出ない配置でよかったです。口頭発表はもっと身振り手振りして、原稿を棒読みするのではなく、原稿を覚えて発表する勢いですと良いと思います。
- ・たくさんの良い刺激が受けられたので、とても参加して良かったと思う。

中学校教員

- ・課題の抽出が秀逸な物が多くみられました。行政課題の解決のヒントになる内容も多くあり、今後の取り組みに期待します。
- ・体育館での音声が聞きにくかった。個々の発表についてのコメントがあつても良かったのでは…。
- ・原稿を見ながらの発表者が多かったのは残念（午後3番目の班は台紙に貼って見苦しくない状態で、立ち姿も良かった）。内容をしっかり自分のものにして、手ぶらでジェスチャーも交えながら発表するとさらに良くなると思います。問い合わせをうまく使っている部分もあり、良かったと思います。
- ・生徒の皆さんが、研究者の一人としてしっかり発表していたことが、素晴らしいと思いました。

保護者

- ・高校生はもちろん、中学生の発表技術の高さに驚きました。
- ・社会に出てからも聴衆を納得させる様々な技術や論理的な話の組み立て、調査やエビデンスの準備など、必要なスキルばかりです。素晴らしい鍛錬になっているものと思いました。
- ・選抜されたグループの発表なので、見応えがありました。
- ・もっともっと質疑応答が活発に行われれば、より素晴らしい発表会になると思いました。

その他

- ・生徒たちの課題研究に向けた自主的な活動に感銘しました。
- ・いろんな視点での発表がこちらの刺激にもなりありがとうございます。ぜひまた、参加させてください。

